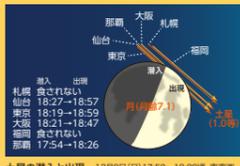






地球から月までは約37万km。それよりもはるか遠く(約14億4358万km)にある土星が、月と重なって見えなくなる土星食が12月8日(日)に起こります。



土星の潜入と出現 12月8日(日) 17:50~19:00頃、南関東

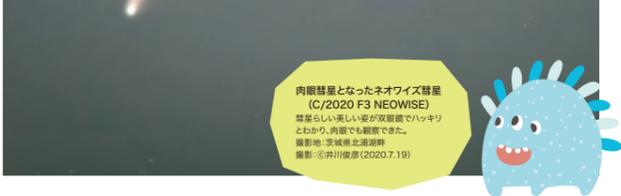
10月12日、地球に最接近する紫金山・アトラス彗星

肉眼でも見られるか!? チャンスは9月下旬から!!

まだ彗星を見たことがない人には、初体験のチャンス! 2023年に発見された彗星がいよいよ今年、太陽と地球に近づき、もしかしたら肉眼でも見えるぐらい明るくなるかも!? と予測されています。

「紫金山・アトラス彗星」とは?

2023年1月9日に中国の紫金山[しきんざん]天文台で発見され、その後2023年2月22日に南アフリカの惑星地球衝突最終警報システムATLAS[アトラス]も同じ彗星を検出しました。

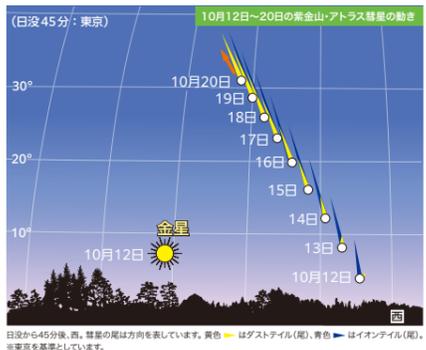


★「紫金山・アトラス彗星」の観察カレンダー

Table with observation dates, visibility, and direction for C/2023 F3 Neowise.

「紫金山・アトラス彗星」を見よう

紫金山・アトラス彗星の観察にオススメの時期は上の表の通り。10月上旬までは高度が低いので、地平線近くまで見晴らせる観察場所を探しておきましょう。



「誤解」あるある 彗星を正しく知ろう

よくあるのは、流れ星と彗星がゴチャになって生じる誤解。この機会に正しい知識を整理しておきましょう。

- 彗星は宇宙を旅する天体
1. 楕円軌道を周り、200年以内の周期で太陽の近くに戻ってくる「短周期彗星」
2. 楕円軌道を周り、200年~数万年かけて戻ってくる「長周期彗星」
3. 軌道が楕円になっていないため二度と戻ってこない「非周期彗星」

今回の紫金山・アトラス彗星は3の「非周期彗星」で、今後二度と見ることはできません。
彗星の本体(中心部)は「核」と呼ばれ、岩石や有機物の混ざった氷(水)でできていて、よく「汚れた雪玉」に例えられます。

彗星の進行方向と尾の向きは関係なし
彗星の尾は2種類あって、成分や見え方が違います。1つは「イオンテイル」。電気を帯びたガス(イオン)でできていて、撮影すると青く写ります。



この星図は東京を基準として以下の日付時刻の夜空を表しています

- 9月1日 1:00ころ 10月15日 22:00ころ
9月15日 0:00ころ 11月1日 21:00ころ
10月1日 23:00ころ 11月15日 20:00ころ

Table with magnitude and symbol legend for the star chart.

2024年9月~11月の天文カレンダー

3か月分の天文現象を掲載しています。壁に貼って星空観望にお役立てください。

Calendar grid for September, October, and November 2024 with astronomical events.

惑星ガイド (Planet Guide) table with names, dates, and magnitudes.